

2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年1月1日～2023年12月31日)



株式会社小林工務店

発行日：2024年3月8日

(改定日：2024年12月4日)



目 次

1. 会社の概要	・・・	P 2
2. 主な環境負荷の実績	・・・	P 2
3. 対象範囲（認証・登録範囲）	・・・	P 3
4. 推進組織図及び役割・責任・権限	・・・	P 3
5. 環境経営方針	・・・	P 4
6. 環境経営目標	・・・	P 5
7. 環境経営計画	・・・	P 6
8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と その評価、並びに次年度の環境経営計画	・・・	P 7
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	・・・	P 8
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	P 10

1. 会社の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社小林工務店
代表取締役 小林 正

(2) 所在地

本 社 兵庫県養父市大屋町系原422番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 小林寛貴
環境管理担当者 取締役 小林寛貴
連絡先 TEL：079-669-1063
FAX：079-669-1562

(4) 事業の概要

土木工事業

(5) 事業規模

年間売上高 351百万円（2023/1月～2023/12月）

	本社	合計
総従業員	7人	7人
延べ床面積	319㎡	319㎡
敷地面積	270㎡	270㎡

(6) 建設現場等の概要（2023/1～2023/12）

元請工事 5件
下請工事 0件

(7) 会計年度 1月～12月

2. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	全社排出量		
		2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	29305	31691	33557
電力使用量	kWh	17016	12780	15774
ガソリン使用量	L	7187	7784	7076
軽油使用量	L	2316	3463	4374
廃棄物排出量	トン	93	440	854
一般廃棄物	kg	93	70	68
産業廃棄物	トン	93	440	854
水使用量	m ³	259	222	247

使用した電力の二酸化炭素排出係数；0.318 kg-CO₂/kWh（関西電力、2019年度の調整後排出係数）

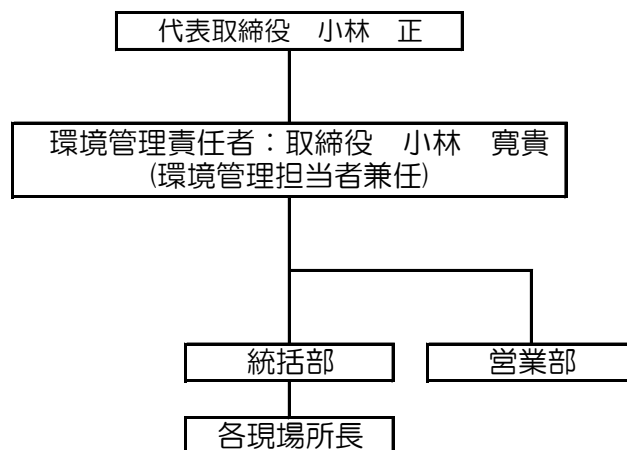
3. 対象範囲（認証・登録範囲）

事業活動：土木工事業

対象事業所：本社

4. 推進組織図及び役割・責任・権限

【推進組織図】



【役割・責任・権限】

	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役 小林 正	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③環境経営目標、環境経営レポートを承認する ④資源（人・もの・金）の用意をする ⑤エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者 取締役 小林 寛貴	①エコアクション21建設業向けガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②上記の結果を社長に報告する ③EA21文書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する ⑤環境経営目標、環境経営レポートを作成する
環境管理担当者	①EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ②環境への負荷の自己チェックを実施する ③環境への取組の自己チェックを実施する ④環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
統括部・営業部 及び 全従業員	①自部門の環境目標、環境活動計画の達成と実績の把握を行う ②環境方針、自部門の環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④自部門の教育・訓練を実施する ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
現場所長	①作業所におけるEA21実行責任者を兼ねる ②作業所の環境目標、活動計画の達成と実績の把握を行う

5. 環境経営方針

株式会社小林工務店 環境経営方針

地域に密着した企業活動を第一に考え、地域社会から必要とされる企業であるために、地球環境問題に取り組み、それが事業の発展につながるような建設活動に努めます。

1. 当社は下記のとおり、事業活動に伴う環境負荷の低減、並びに工事施工時における環境配慮に努めます。

(1) 電力及び燃料の使用による二酸化炭素排出量の削減

(2) 水使用量の削減

(3) 廃棄物排出量の削減

(4) 環境に配慮した工事の推進

2. 関係する環境法規等並びに地元との約束等を遵守します。

3. 環境経営の継続的改善を図ります。

4. 本方針を全従業員及び協力会社社員に周知し、社外へも公開します。

____は取組の重点分野

制定日：2022年 5月 15日

株式会社小林工務店

代表取締役 小林 正

6. 環境経営目標

No.	環境経営目標	基準年度 2021年度実績		2022年度目標		2023年度目標		2024年度目標	
1	電力使用量の削減 (本社) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.318	8,873	kWh		8,784		8,696		8,607
		2,822	kg-CO ₂	-1%	2,794	-2%	2,766	-3%	2,737
2	電力使用量の削減 (工事現場) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.318	8,143	kWh		8,062		7,980		7,899
		2,589	kg-CO ₂	-1%	2,563	-2%	2,537	-3%	2,511
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.32	7,187	ℓ		7,115		7,043		6,972
		16,674	kg-CO ₂	-1%	16,507	-2%	16,341	-3%	16,174
4	重機燃料使用量の削減 軽油 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.58	2,316	ℓ		2,293		2,270		2,246
		5,975	kg-CO ₂	-1%	5,915	-2%	5,856	-3%	5,796
5	二酸化炭素排出量の削減 ※2	28,060	kg-CO ₂	-1%	27,779	-2%	27,499	-3%	27,218
6	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上) ※3	93.4	%	+0.1 (%)	93.5	+0.2 (%)	93.6	+0.3 (%)	93.7
7	一般廃棄物排出量の削減	93	kg	-1%	92	-2%	91	-3%	90
8	水使用量の削減	259	m ³	-1%	256	-2%	254	-3%	251
9	問題発生を未然に抑える 取組の推進 ※4	100	%	評価ポイント 100%以上		評価ポイント 100%以上		評価ポイント 100%以上	

(注) 化学物質は使用していないため、目標に設定していない。

※1 電力の二酸化炭素排出係数：0.318 kg-CO₂/kWh（関西電力、2019年度の調整後排出係数）

※2 灯油の値は含まれていない。（使用量が少ないため、目標に設定していない）

※3 産業廃棄物のリサイクル率の向上；再生量(87.21t)÷発生量(93.36t)＝93.4%

※4 請け負った工事ごとに、現場代理人が「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、
「建設廃棄物」に関する取組を項目ごとに点数評価し、下記の計算式でポイントを算出する。

ポイント（%）＝100×工事数×評価点数（実績）/工事数×評価点数（満点(4)）

7. 環境経営計画

No.	環境経営目標	環境経営目標の達成手段	スケジュール					実施体制 (責任者)
			全期	春期	夏期	秋期	冬期	
1	電力使用量の削減 (本社) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	環境管理責任者
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
		4.離席時のパソコン電源OFF	○					
2	電力使用量の削減 (工事現場) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	統括部長
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					環境管理責任者
		3.法定速度の順守 4.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
4	重機燃料使用量の削減 軽油 (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					統括部長
		3.法定速度の順守(ダンプ、トラック)	○					
		4.相乗りの励行(ダンプ、トラック)	○					
		5.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
		6.過度な負荷をかけないアクセルワーク(重機)	○					
5	二酸化炭素排出量の削減	・NO.1～4 に従う						
6	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上)	1.建設廃棄物の分別徹底	○					統括部長
		2.不法投棄、不法処分リスクの無い処理業者への委託	○					
		3.保管基準の順守	○					
7	一般廃棄物排出量の削減	1.リサイクルを意識した一般ごみの分別	○					環境管理責任者
		2.コピー紙の裏紙使用	○					
		3.詰め替え容器のある商品の選択	○					
8	水使用量の削減	1.水の流しっぱなしの防止	○					環境管理責任者
		2.節水ステッカー貼付による節水意識の向上	○					
9	問題発生を未然に抑える取組の推進	・請け負った工事ごとに、「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、「建設廃棄物」について、適切な取組を実施(低騒音型重機使用、沈砂池の設置、排ガス規制対応車使用、特定建設資材の100%リサイクルなど)	○					統括部長

8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画

No.	環境経営目標 (環境経営方針 との関連)	環境経営計画に基づき 実施した取組内容	評価 ※4	環境経営計画の実績 (2023年1月～12月)			次年度の 環境経営計画
1	電力使用量の削減 (本社) (CO ₂ 排出量削減)	・ 昼休みの消灯 ・ 空調設定温度の励行 ・ 部分消灯及びこまめな消灯 ・ 離席時のパソコンOFF	◎ ◎ ◎ ○	単位	kg-CO ₂	・ 削減意識は向上しているが、目標達成とはならなかった	・ 適切な空調設定温度の励行を行う
				目標	2,766		
				実績	2,973		
				達成率	93	%	
				達成状況	※4 ×		
2	電力使用量の削減 (工事現場) (CO ₂ 排出量削減)	・ 空調設定温度の励行 ・ 部分消灯及びこまめな消灯 ・ 離席時のパソコンOFF	◎ ◎ ○	単位	kg-CO ₂	・ こまめな消灯やエアコンの必要以上の使用を控えることが出来た	・ 現在の取組を継続する
				目標	2,537		
				実績	2,042		
				達成率	124	%	
				達成状況	○		
3	自動車燃料使用量の削減 (ガソリン) (CO ₂ 排出量削減)	・ 急発進の防止 ・ アイドリングストップ ・ 相乗りの徹底 ・ 適正空気圧の確保	◎ ○ ○ ○	単位	kg-CO ₂	・ 未達成であったが、乗り合わせやエコ運転等意識の向上が見られた	・ 自覚教育などを通じて、更に意識を徹底させる
				目標	16,341		
				実績	16,415		
				達成率	99	%	
				達成状況	×		
4	重機燃料使用量の削減 (軽油) (CO ₂ 排出量削減)	・ アイドリングストップ ・ 作業内容に応じたアクセルワークの実施	○ ○	単位	kg-CO ₂	・ 今年度は工事車両の使用頻度が多く使用量が増加してしまった	・ 自覚教育などを通じて、更に意識を徹底させる
				目標	5,856		
				実績	11,283		
				達成率	52	%	
				達成状況	×		
5	二酸化炭素排出量の削減 ※1	No.1～No.4 に記載		単位	kg-CO ₂	No.1～No.4 に記載	No.1～No.4 に記載
				目標	27,499		
				実績	32,713		
				達成率	84	%	
				達成状況	×		
6	産業廃棄物排出量の削減 ※2	・ 建設現場での分別強化 ・ 金属くずの分別ボックス新設	○ ◎	単位	%	・ 分別の意識が浸透した	・ 分別を更に徹底して金属くず容器を全現場に設置する
				目標	93.6		
				実績	99.8		
				達成率	107	%	
				達成状況	○		
7	一般廃棄物排出量の削減	・ コピー用紙の裏紙使用 ・ 一般廃棄物分別の徹底による再資源化の推進	◎ ○	単位	kg	・ コピー用紙の裏紙使用、ごみの分別が徹底された	・ 現在の取組を継続する
				目標	91		
				実績	68		
				達成率	134	%	
				達成状況	○		

8	水使用量の削減	・水の流しっぱなしの防止	◎	単位	m ³		・昨年に続き目標を達成することが出来た	・現在の取組を継続する
		・節水ステッカー貼付	○	目標	254			
		・節水意識の向上	○	実績	247			
				達成率	103	%		
				達成状況	○			
9	問題発生を未然に抑える取組の推進 ※3	・工事における下記の環境配慮活動の実施		単位	%		(実施した工事の環境配慮) 低騒音型重機使用、沈砂池の設置、排ガス規制対応車使用、特定建設資材の100%リサイクルなど	・現在の取組を継続する
				目標	100			
				実績	100			
		(1)騒音・振動の低減	○	達成率	100	%		
		(2)水質汚濁の防止	○	達成状況	○			
		(3)大気汚染の防止	○					
		(4)建設廃棄物のリサイクル	○					
実施体制		・実施体制（環境管理責任者、環境委員会並びに各目標ごとに設定された実施責任者）は有効に機能しており、これを継続する						

※1 二酸化炭素排出量（総量）の実績＝32713kg-CO2（取組期間中）

※2 産業廃棄物のリサイクル率の向上(実績)；100×再生量(852.68t)÷発生量(853.98t)＝99.8%

※3 問題発生を未然に抑える取組；ポイント(%)＝100×36点(実績)/36点(満点)＝100%

※4 達成状況：○目標達成 ×目標未達成

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

(1) 当社に適用される環境関連法規等の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例等を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘も過去5年間ありません。

遵守評価者：取締役 小林 寛貴

遵守評価日：2024年3月1日

適用される法令等		主な遵守すべき内容 ※	遵守状況
1	廃棄物処理法	処理業者との適正な契約書の締結並びに業者の許可証有効期限の確認	遵守
		マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、5年間保存）	遵守
		廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	遵守
		マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	遵守
2	建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化（コンクリート、廃木材、アスファルト等）	遵守
		元請業者の発注者への再資源化に関する書面報告、並びに再資源化実施状況の記録作成と保存	遵守
		都道府県知事への事前届出の提出（工事着手の7日前まで）	遵守
3	騒音規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、85dB(A)を超えないこと	遵守
4	振動規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、75dB(A)を超えないこと	遵守
5	消防法	消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	遵守
6	フロン排出抑制法	空調機の簡易点検（3か月以内ごと）及び廃棄後3年間までの記録保存	遵守
		・廃棄時におけるフロン類の回収依頼書又は委託確認書の交付 ・回収依頼書又は委託確認書並びに充填回収業者が交付した引取証明書の3年間保存	遵守
7	自治体との災害時 応援協定	災害発生時に応援派遣する	遵守

※ 紙面の都合のため、主要な遵守すべき内容を抜粋し、簡略的に記載しており、詳細は「環境法規制等一覧表兼順守評価記録」で管理している

(2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等は過去5年間、1件も発生しておりません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成日：2024年3月6日

代表者：代表取締役 小林 正

作成者：取締役 小林 寛貴

見直しに必要な事項		環境管理責任者の報告	代表者による評価	変更の 必要性
環境経営 方針	環境経営方針に示された 環境への取組の基本的方 向は現在も適切か	環境経営方針は適切で ある	環境経営方針は変更し ない	☐ 有り ☒ 無し
環境経営 目標及び 環境経営 計画	環境経営目標・計画の達成 状況は妥当か ・課題とチャンス、・二酸化 炭素排出量削減、・廃棄 物排出量削減、・水使用量 削減、・製品・サービスの環 境性能の向上	環境経営目標及び環境 経営計画は適切である	環境経営目標及び環境 経営計画は変更しない	☐ 有り ☒ 無し
その他の 環境経営 システム	①環境負荷の大きな変化 ②法規制等の遵守状況 ③教育・訓練の実施 ④外部からの苦情や要望 ⑤実施及び運用の適切性 ⑥緊急事態への準備状況 ⑦取組の確認並びに是正処 置の状況 ⑧環境経営レポートの作成 と公表、活用状況	①大きな変化はない ②全て遵守されている ③適切に行われている ④特になし ⑤適切だと思われる ⑥訓練等を行った ⑦一時は書類の作成・確認 が遅れていたが、現在は書 類の作成等追いついており 問題はない ⑧作成し、当社玄関にて設 置配布中	その他の環境経営シス テムは変更しない	☐ 有り ☒ 無し
実施体制	実施体制は効果的であ り、変更の必要性はない か	実施体制は効果的であ る	実施体制は継続する	☐ 有り ☒ 無し
前回の代表 者指示事項 のフォロー アップ	エコアクション21に取り組む以前よりも、一人一人の環境に対する意識が高まっている と思われる。仕事柄年度の工事内容に左右されるため、数値には反映されていない部分もあ るが、高い意識をもち、環境に配慮した行動を継続するよう心掛けてほしい。			
代表者の 指示事項	2023年度は、前年度より二酸化炭素総排出量が増えてしまっており、特に電気の使用量 の増加が激しいため、2024年度は特に電気の使用量を意識して、節電に努めてほしい。 現場ハウスなども使用していない時間はこまめに、電気を切るようにすること。			
代表者の 総合評価 ※	2023年度も前年に続き二酸化炭素総排出量が増えてしまっている。 上述した通り、特に現場での電気の使用量の増加が顕著なため、小まめに電気を切るよう にすることや、冷暖房の設定温度も意識することが、大切であると思われる。 2024年度は電気の使用量削減を目標とし、全員で協力し取り組むこと。			

※次年度以降への展開を重点に記載する